

問1 長野県などの山間部で見られる林業の現状について、高度経済成長期以降の社会状況と関連付けた記述として正しいものを選びなさい。（2018年 神奈川県公立入試 類似）

1. 木材の輸入が厳しく制限されたため、国内の森林資源の活用が急速に進んだ。
2. 木材価格の低迷や過疎化・高齢化の影響で、手入れが行き届かない森林が増加した。
3. バイオマス発電への転換により木材価格が急騰し、林業に従事する若者が都市部から大量に流入した。
4. 林業の機械化が完了したことで、人手を使わずにすべての木材を安価に生産できるようになった。

問2 土地利用の特色について述べた次の文のうち、果樹園の立地条件と地図上の特徴について説明したものとして正しいものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）

1. 日当たりを重視して南向きの斜面に分布することが多く、排水性の良い環境が好まれる。
2. 灌漑に便利な川沿いの低湿地に分布することが多く、常に湿った土壌が好まれる。
3. 冬の寒さを避けるために北向きの斜面に分布することが多く、冷涼な気候が好まれる。
4. 大規模な機械化を行うために広大な平坦地に分布することが多く、粘土質の土壌が好まれる。

問3 沖縄県と東京都の人口動態を比較した際、沖縄県は出生数（17,000人）が死亡数（11,000人）を大きく上回っているのに対し、東京都は出生数と死亡数がほぼ同数でありながら、全体の人口は大きく増加しているという特徴があります。この両者の違いについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

1. 沖縄県は自然増加が人口増加の主な要因であり、東京都は社会増加が人口増加の主な要因である。
2. 沖縄県は社会増加が人口増加の主な要因であり、東京都は自然増加が人口増加の主な要因である。
3. 沖縄県も東京都も、出生数が死亡数を大きく上回る自然増加によって人口が増えている。
4. 沖縄県も東京都も、転入者が転出者を大きく上回る社会増加のみによって人口が増えている。

問4 新潟県、北海道、秋田県、茨城県などが都道府県別農業産出額の上位を占めている農産物について、その生産地域や方法に関する説明として正しいものはどれですか。（2014年 和歌山公立入試 類似）

1. 越後平野や秋田平野などの広大な平野部で、大型機械を活用した効率的な生産が行われている。
2. 大消費地に近い立地条件を生かし、茨城県などを中心にビニールハウスを用いた促成栽培が中心となっている。
3. 山地が多く平地が少ない地形を克服するため、段々畑を利用した果樹栽培が主な生産形態である。
4. 冷涼な気候が生産に適さないため、現在は南九州などの温暖な地域が主な供給源となっている。

問5 静岡県、長野県、千葉県で全国の生産量の約半分を占める農産物について、長野県が夏から秋にかけて出荷量を増やせる理由を、気候や農業の仕組みの観点から説明したものとして最も適切なものを選択してください。（2014年 愛媛公立入試 類似）

1. 標高が高い地域の涼しい気候を利用して、平地での生産が困難な時期に栽培する抑制栽培が行われているため。
2. 温暖な気候を利用して、他の地域よりも苗の成長を早めて出荷時期を前倒しする促成栽培が行われているため。
3. 大消費地に近い立地条件を活かし、輸送コストを抑えながら新鮮な状態で大量に出荷する近郊農業が発達しているため。
4. 1年間に2回、同じ耕地で異なる種類の作物を栽培する二毛作によって、単位面積あたりの収穫量を増やしているため。

問6 肉用牛の産出額で上位を占める鹿児島県、北海道、宮崎県が生産環境や特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2014年 和歌山公立入試 類似）

1. 広大な土地や火山灰層の台地などを利用し、大規模な飼育が行われている。
2. 夏の涼しい気候を利用して、大都市向けの生乳の出荷が中心となっている。
3. 大都市に近い立地を活かし、新鮮な状態で出荷する近郊農業が発展している。
4. 水はけの良い傾斜地を利用して、果樹栽培の副産物を飼料とした生産が行われている。

問7 群馬県、愛知県、三重県などの地域において、総人口に占める在留外国人の割合が高い数値を示している理由として、これらの地域の産業的特徴をふまえた説明として正しいものはどれですか。（2026年 青森公立入試 類似）

1. 自動車産業などの製造業が盛んであり、多くの労働力を必要としているため
2. 大規模な農業経営が行われており、第一次産業の就業者が不足しているため
3. 県庁所在地に政治的機能が集中しており、公務員として働く外国人が多いため
4. 自然豊かな観光地が多く、宿泊業や飲食業といったサービス業が中心であるため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> 木材価格の低迷や過疎化・高齢化の影響で、手入れが行き届かない森林が増加した。	外国産木材の輸入拡大による価格低迷に加え、農山村部における過疎化や高齢化が進行したことで、林業の担い手が不足しました。その結果、枝打ちや間伐といった適切な管理が行われない森林が増え、土砂災害防止や水源涵養といった森林の持つ多面的な機能の低下が懸念されています。
問2	<b>答え 1</b> 日当たりを重視して南向きの斜面に分布することが多く、排水性の良い環境が好まれる。	果樹園の立地は、植物の生育に直接影響する日照条件と土壌の乾燥具合に大きく左右されます。地形図の読解においても、山の南側（陽光が当たる側）に果樹園の記号が集中している様子は典型的な風景として出題されます。水田が広がる平坦な土地とは対照的に、水はけの良い傾斜地が選ばれるという因果関係を理解しておくことが重要です。
問3	<b>答え 1</b> 沖縄県は自然増加が人口増加の主な要因であり、東京都は社会増加が人口増加の主な要因である。	沖縄県は出生数が死亡数を上回っていることから、自然増加が人口増を支えていることがわかります。これに対し、東京都は出生数と死亡数の差がほとんどないにもかかわらず人口が増えているため、転入者の流入による社会増加が主な要因となっています。このように、地域によって人口が増える仕組みが異なることを理解しておくことが重要です。
問4	<b>答え 1</b> 越後平野や秋田平野などの広大な平野部で、大型機械を活用した効率的な生産が行われている。	上位の県名から、この農産物は米であることが判断できます。日本の稲作は、新潟県の越後平野、秋田県の秋田平野、北海道の石狩平野といった広大な平野部において、トラクターやコンバインなどの大型機械を導入し、大規模かつ効率的に行われているのが特徴です。茨城県も、関東平野という日本最大の平野の一部を構成しているため、全国有数の米の産地となっています。
問5	<b>答え 1</b> 標高が高い地域の涼しい気候を利用して、平地での生産が困難な時期に栽培する抑制栽培が行われているため。	長野県などの高冷地では、夏の涼しい気候を活かして、平地では暑さで栽培が難しい夏から秋にかけてキャベツなどを生産する「抑制栽培」が行われています。これにより、静岡県や千葉県などの温暖な地域の出荷時期と重ならないように市場へ供給できるため、農家の収益安定にもつながっています。一方で、暖かい気候を利用して出荷を早めるのは「促成栽培」であり、高知平野のなすなどが代表例です。
問6	<b>答え 1</b> 広大な土地や火山灰層の台地などを利用し、大規模な飼育が行われている。	肉用牛の主要産地である北海道では広大な土地を活かした大規模経営が行われ、鹿児島県や宮崎県ではシラス台地という畑作や畜産に適した地形を利用して生産が行われています。選択肢にある「生乳の出荷」は乳用牛の特徴であり、「近郊農業」は野菜などに多く見られる形態です。肉用牛は地方での生産割合が高いのが特徴です。
問7	<b>答え 1</b> 自動車産業などの製造業が盛んであり、多くの労働力を必要としているため	北関東（群馬、茨城など）や東海地方（愛知、三重など）は、日本でも有数の工業地帯・地域を形成しています。特に自動車関連などの製造業の工場が多く集まっており、そこでの人手を補うために多くの外国人が暮らしていることが、在留外国人の割合を高める要因となっています。